

『教育迷宮』

～アカデミック・ラビリンスを横断すること～



なんて複雑な迷宮なんだ！

なんてねじれた見せかけなんだ！

学校は人々が道に迷う場所であり、
学習は成績を崇拜することになります。

平凡な文化に浸って、
学生たちはおじぎをする方法を学ぶ。

教師は組織的に人を洗脳し、
「何を」や「どこで」に焦点を当て、
「なぜ」と「どのように」には焦点を当てない。

ああ！この無能の連鎖から逃れる唯一の方法はあるか？

すべての先入観を取り除き、
より目を覚まして観察しなければなりません。

- 玲亜： （アートワークをちらっと見る）この人はもっと雄弁に抗議する方法を学ぶ
必要があります。このイメージは、単なるゴミの寄せ集めではありませんか？
- 悟： （ドライマティーニを飲みながらうなずく）確かそうですね。実用的な解決策が
ない暴言によって多くのエネルギーが無駄に使われています。
- ミン： 私は、そうとも言えないと思う。スターンバーグが指摘しているように、
ほとんどの創造的なアイデアは最初は「ゴミ」とラベル付けされています。
そして、解決はしばしば闘争の過程で起こります。
- ティム： まあ、それはたいていの会話で起こりうることです。

- T Newfields (和訳: 新田博)

開始：2002年名古屋市 ★ 完成：2022年横浜市

